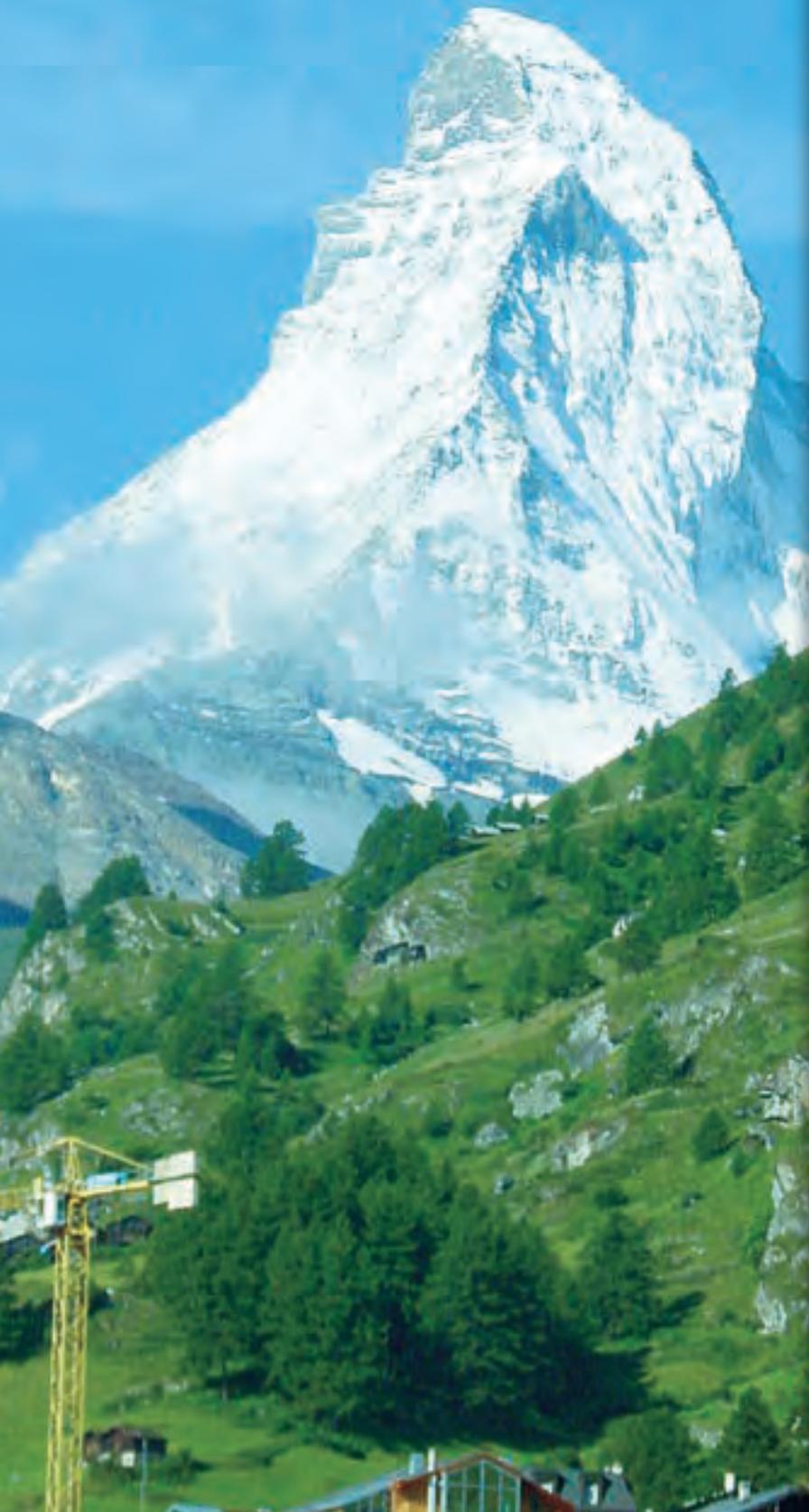


文学部ドイツ語圏文化学科

大学院人文科学研究科
ドイツ語ドイツ文学専攻



大学院人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻

何を学ぶのか

ドイツ語ドイツ文学専攻ではドイツ文学・文化およびドイツ言語学の専門知識を身につけることはもちろん、ベースとなるドイツ語運用能力の向上も重視します。また、ティーチング・アシスタントとして教育経験を積むこともできます。

小林和貴子 准教授

専門

人々はどのように「聞いて」きたのか。聴覚のありようは歴史的、文化的、メディア的に規定されるものであるとして、聴覚芸術は主にオーディオドラマあるいは聴覚劇をもとに、時代ごとの「聞き方」を分析しています。

授業

ある音や音楽を聞いて何かを想像することがあります。音・音楽と想像力、イメージ、その言語化といった事柄は、どのように関連しているのでしょうか。近年ではおもにドイツ・ロマン派の文学作品や理論的テキストを扱いながら、この問題を考えています。

大貫敦子 教授

(身体表象文化学専攻と兼任)

専門

おもな研究領域は19世紀末～1920年代の文化です。様々な芸術の領域で新しい試みが生まれたこの時代における価値観の変化と、芸術における新たな表現方法の関係について、思想史や社会文化史を含めた分析を行っています。

授業

最近の授業では、「ドイツ」という文化的アイデンティティの形成とその問題をテーマとしています。「ドイツ性」をめぐる美術史の言説や、ナショナル・アイデンティティを生み出す「記憶の場」に関する文献を読み、文化学的アプローチの基礎と読解力の習得を目指す授業としています。

伊藤 白 准教授

専門

他者表象の社会的背景やそこに構築された権力構造を分析するとともに、「他者」の表象によって「自己」と「他者」との間の壁を超える可能性を文学作品の中に見出すことを研究のテーマとしています。

授業

「イメージ」は構築されたものであるという意識のもと、近現代の文学作品や思想・美術・音楽などの様々な分野のテキストを精読し、その中に描かれた社会的・民族的・政治的・ジェンダー的・宗教的な「他者」及び「自己」のイメージを学生と一緒に読み解いていく授業を行っています。

文学・文化学

テキスト

メディア

理論

ドイツ語
教育

教育と
実践

Thomas Pekar 教授

専門

ムージル、ホーフマンスタール、カフカ、ユンガーなどの作家研究とならび、文化比較の観点からナチス時代に亡命した作家たち、特にユダヤ人作家を中心に研究しています。

授業

ドイツ語圏の主要な作家の作品について分析と議論を行っています。最近では、おもに亡命と異文化間の接触をテーマとして授業をしました。前者に関しては特にナチス時代に東アジアへ亡命した作家の作品を、後者に関しては日独関係を扱っています。

清野智昭 教授

専門

ドイツ語の構文や表現の基になる事態の捉え方を研究しています。特に興味があるのが、有生性が構文に与える特性、つまり、生き物（典型的には人間）と事物の表され方です。

授業

動詞が中心となり文を作るという考えをするヴァレンツ理論とその現代的意義、コーバスを使った構文の分析などを扱っています。

高田博行 教授

専門

言語はなぜ変化するのか。この答えとして、私は人を取り巻く社会の構造や、人と人のコミュニケーションのあり方の変化に応じて言語が変化するプロセスに注目します。「人の顔が見える」ようなドイツ語史記述を目指しているわけです。

授業

「歴史語用論入門」、「歴史社会言語学入門」という授業名で、魔女裁判記録の口語性、戯曲のなかの呼称詞、辞書のなかの野卑語、アメリカ移民のドイツ語、ナチズムのドイツ語等を扱いました。

岡本順治 教授

専門

おおきな枠では、人間の認知活動の一環として言語を見る「認知言語学」が専門です。具体的には、ドイツ語の分離動詞 (Partikelverben) の仕組みの解明、心態詞 (Modalpartikeln) の意味を近年は扱っています。

授業

言語を分析する時に、直感的な説明ではなく、科学的な方法論が必要になります。近年では、コーバス言語学、音声学・音韻論、統語論・意味論などの基礎的知識と理論をきちんと理解するための授業を行っています。

通時言語学

共時言語学

応用言語学

言語学

ドイツ語
運用能力
の向上

大学院の授業

大学院では学部生に比べると卒業に必要な履修科目は少なくなり、時間割いっぱい授業が入ることは通常ありません。しかしどの授業も学部のものより専門的で、単に講義を聴く形式というよりは、研究内容や文献講読を通して学んだことを発表するような、ゼミ形式の授業がほとんどです。ですから授業の予習・準備は学部生時代より大変かもしれません。しかしながら大学院の授業は、それぞれの受講生の研究テーマや関心に合わせた少人数授業なので、授業を受けるたびに、授業から研究のための様々なヒントを得ることができると思います。

また私の場合は、2017年9月に学習院大学客員研究者として来日した Paul Rössler 教授（ドイツ・レーゲンスブルク大学）と大学院の授業を通じて知り合うことができ、そのことがきっかけで、2017年11月から12月にレーゲンスブルクに研究滞在をすることができました。（ちなみに、この滞在では「人文科学研究科特別研究費」を利用させていただきました。）このように、海外研究者や他大学院と活発な交流も行っている学習院大学大学院ドイツ語ドイツ文学専攻の授業では、学習院外と人的繋がりを得て、研究の発展が望める可能性もあります。



（鯨岡さつき 博士後期課程）



院生の日々

白鳥 葵 (博士前期課程)

私はまだ大学院に入学して一年目ですが、すでに学部との違いを実感し、驚いています。授業数は学部比べて少なくなりますが、一つ一つの授業が濃密で、充実しています。どの授業も少人数な上、先生方との距離が近いので、先生方は学生の関心に合わせて授業を組んで下さいます。そのため、課題や予習が大変に感じるときでも、楽しく学ぶことが出来ています。

院生室の設備は充実しており、恵まれた環境で学ぶことができます。また、学生の中にはティーチング・アシスタント (TA) をしている人もいます。TA では、自分が学部生だったころとは異なる視点で物事を見ることができるので、それもまた良い勉強になります。

白鳥さんの時間割

	月	火	水	木	金
1					
2		ドイツ文学 特殊研究 「Chamissos "Peter Schlemihl"」		ドイツ文学 特殊研究 「Aktuell gesprochenes Deutsch」	
3				TA (文学・文化 入門ゼミナール)	
4					
5			ドイツ文学 演習 「ハンナ・アー レントを読む・ 女性をめぐる 言説」	ドイツ文学 演習 「文化とアイデン ティティ形成・ 文化学と文学・ 文化研究」	身体表象 文化論演習 「ジェンダーを 知る、ジェンダー から考える」

杉山 真佑美 (博士後期課程)

大学院の授業は、研究の宝庫です。授業の予習は時に大変ですが、専門家の意見を聞けることは私たち学生にとって贅沢な時間です。ドイツ人の先生による授業も開講されているので、専門的知識はもちろん、ドイツ語力の向上も図ることができます。修士論文・博士論文執筆に向けた研究は、指導教授と共に進めていきます。面談を通して、当面の課題を確認しながら研究を進めていきます。院生室の設備は充実しており、書庫にはドイツ語文献が豊富に所蔵されています。

研究や毎週の授業とその予習のほかに、学部の授業で先生の補佐としてティーチング・アシスタント (TA) をしている院生もいます。私の場合はそれに加えて、毎週、高校でドイツ語を教えています。TA や非常勤講師として実際に教育の現場に立つことも、これまでとは違った角度から学べる貴重な経験であり、発見と実りある毎日を過ごすことができます。

杉山さんの時間割

	月	火	水	木	金
1				※1	
2		ドイツ文学 特殊研究 「Chamissos "Peter Schlemihl"」		※1	
3				※1	TA (現代地域 事情入門 ゼミナール)
4					
5				ドイツ文学演習 「文化とアイデンティ ティ形成・文化学と 文学・文化研究」	
集中	博士論文指導				

※1 学習院女子高等科にて非常勤講師としてドイツ語の授業を担当

院生・卒業生の活躍



受賞された佐藤恵さん

本学ドイツ語ドイツ文学専攻出身の佐藤恵さんが、2017年5月、第14回日本独文学会学会賞を受賞しました! 受賞対象となった論文「»Wegen dem Clavier«. Die Beethovens und der Rektionswandel der Präpositionen wegen, statt und während im Zeitraum 1520-1870」は在学中に執筆され、ドイツの言語学系の由緒ある雑誌『Muttersprache』(第125号)に掲載されたものです。

ベートーベンの筆談帳を歴史的な話しことばの資料として用い、ドイツ語の前置詞 wegen, statt, während の格支配の変化を追ったもので、多くの実証的データと優れた考察に裏打ちされています。佐藤さん、おめでとうございます!!!



ドイツ語運用能力の育成を重視

当専攻では、より高度なドイツ語の運用能力を在籍生が身につけられるように、DAAD (ドイツ学術交流会) の給付奨学金を利用した短期・長期語学留学をバックアップし、コミュニケーション能力の育成に特化したネイティブの講師による授業を開講しています。

ドイツ語ドイツ文学専攻フロア図(北2号館3階)



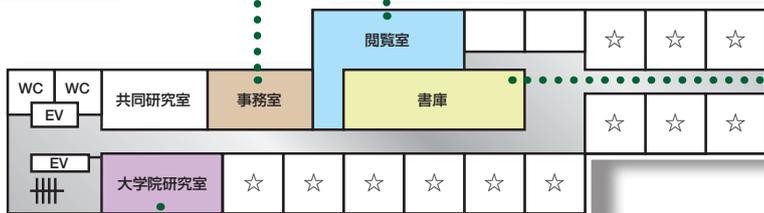
事務室

助教1名と副手2名がいます。履修や留学などさまざまな相談に乗っています。



閲覧室

書庫の資料を閲覧する場でもあり、おもに学部生が集まって勉強したり、食事したり、情報交換を行う場所です。和書やDVD、ビデオ等の資料が配架されており、AV機器もあります。



書庫

おもに洋書が収められています。この他、和書は閲覧室と共同研究室にあります。古い資料は地下書庫に収められています。学科図書室では洋書は約50,000冊、和書は約4,000冊を所蔵しており、手軽に豊富な資料に触れることができます。



大学院研究室

通称「院生室」。パソコンやプリンター、コピー機が備えてあります。大学院生、研究生等が集まる場所です。個人の研究以外にも大学院の授業や研究会がここで行われます。

過去10年間に提出された修士論文・博士論文題目

文学文化

- 19世紀ドイツにおける民衆メルヘンの受容
- 第二次世界大戦以前の日独交流と両国相互の異文化体験
- 20世紀初頭のモダンダンスにおける身体
- 啓蒙期における教育思想の流れからみるフリードリヒ・ヴィークの音楽教育法
- 19世紀の音楽新聞及び雑誌からみる音楽と検閲
- 『ファウストゥス博士』から読み解くトーマス・マンの芸術観の変遷
- グリム兄弟における〈folk〉の理想—市民社会と家族との関連性からの考察

言語学

- トルコ系移民のドイツ語の「模倣」と「定着」
- ab, aus動詞の語彙概念構造に関する比較研究
- 言語意識史から見た言語変化—1520年～1870年における前置詞wegenの通時的発展を例にして
- 「ヒトラー」らしさは言語的にどのように演出されるのか?—小説『帰ってきたヒトラー』(2012年)を例にして
- ドイツ語のウィッツにおける皮肉と嫌み—関連性理論による分析
- 感嘆文に現れる心態詞:コーパスに基づいた分析
- 19世紀オーストリアにおける言語規範と方言
- 「ドイツ性」の象徴としてのドイツ文字—20世紀初頭の全ドイツ文字協会における「民族性」に注目して—

本専攻出身者による博士論文題目

- Hosokawa, Hirofumi: Zeitungssprache und Mündlichkeit. Soziopragmatische Untersuchungen zur Sprache in Zeitungen um 1850. Christian-Albrechts-Universität zu Kiel, 2013
- 木村 裕一: 世紀転換期における言語危機の演出—フリッツ・マウトナー、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール、フランツ・カフカにおける境域的空間と例外的形象—、学習院大学、2013年
- 牛山 さおり: ドイツ語を母語とする幼児の心態詞獲得・習得に関する研究—Rigolコーパスに基づく心態詞dochとjaの分析—、学習院大学、2014年
- 芹澤 円: 近世ドイツの印刷ビラ、新聞、モード雑誌の言語的特徴—口語性の展開と構文の変化を中心にして—

大学院修了後の進路

初めから研究者や大学教員になりたいと思って、大学院への進学を考える人ばかりではありません。本専攻では修士号取得後に社会に出て活躍している人も多くいます。ドイツ語圏の企業、大使館や外務省、通訳・翻訳者、出版社や新聞社といったマスコミ関連、旅行会社などに就職しています。博士課程に進学した人は、その後は大学や高校の教員として活躍しています。専門の勉強をしながら、就職先の調査やそのためにすべきことを考えることもできます。知的好奇心を満たすべく大学院への進学を一度考えてみませんか。





大学院生のための研究支援

奨学金

大学院生の研究活動を支援するために数々の奨学金や研究支援の枠組みが用意されています。

・人文科学研究科特別研究費 (学会発表旅費・滞在費補助、図書の購入などに使用可能) **申請者全員に支給**

- ・博士前期課程： 年間 5 万円
- ・博士後期課程： 年間 20 万円

・学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金 **申請者全員に支給**
年間授業料の 3 分の 1 相当額の給付 (約 16 万円)

★他にも、下記の通り様々な貸与型・給付型奨学金制度があります。

- ・学習院大学教育ローン金利助成奨学金 (給付)
- ・学習院大学海外留学奨学金 (給付)
- ・学習院大学学業優秀者給付奨学金 (給付)
- ・学習院大学奨学金 (貸与)
- ・安倍能成記念教育基金奨学金 (給付)
- ・日本学生支援機構奨学金 (貸与)
- ・学習院大学海外短期語学研修奨学金 (給付)

また、日本学術振興会特別研究員 (DC、PD) の申請や DAAD (ドイツ学術交流会) 奨学金によるドイツ留学も全面的にバックアップします。

2014 年度は博士後期課程から 2 名の学生が、日本学術振興会特別研究員として採用されました。さらに当専攻は、DAAD 奨学金の合格者も多く輩出しています。秋期入学試験で進学が決まれば、入学年度の夏休みに DAAD 奨学生として短期留学することも可能です。

修士論文完成までのプロセス



■研究計画書

本研究科に入学した学生は、4 月末日までに研究目標をまとめた「研究計画書」を提出します。修士論文執筆には長期的な計画が必要となりますので、この時点で大まかな目標について指導教授と相談して作成します。

■論文投稿の支援

本専攻で発行する『学習院大学ドイツ文学会 研究論集』や人文科学研究科が発行する『学習院大学人文科学論集』に研究の成果を発表できます。卒業論文をまとめたものや、修論の途中経過などをアウトプットすることで、研究の方向性をより明確にすることができます。

■修士論文指導演習

博士前期課程を通じて指導教授と綿密に連絡を取ることで、修論完成のための様々なサポートを受けることができます。1 月には、その 1 年の研究成果をまとめたレポートを提出します (もちろん修論提出時には、それをレポートに替えることとなります)。

■学習院大学ドイツ文学会 研究発表会 (修士論文中間発表)

「学習院大学ドイツ文学会 研究発表会」では、修士論文の中間報告など、研究発表の場を提供しています。学会での発表は、研究業績として挙げる事が可能です。

■修士論文提出

修士論文の提出は例年 1 月 10 日頃となっています。字数は 4 万字以上。当然ドイツ語での執筆も可能です。

■博士前期・後期課程在籍期間を通じて

研究計画に応じて、一ヶ月程度の短期間から 1 年以上の長期間まで、海外への留学や研究滞りも可能です。上述の奨学金制度をはじめとする様々なサポートを利用して、国際的な研究活動を行うことができます。

海外研究者や他の大学院との活発な交流

本専攻ではドイツ語圏を初めとする海外で活躍する研究者を積極的に招聘し、本専攻で共同研究や講演会だけでなく、大学院生への授業および研究指導をも行ってもらっています。そうした機会を利用して留学時の指導教授を見つける学生も少なくありません。

また、他大学の若手研究者との交流をはかるため、2012年度は京都大学大学院との合同研究発表会（コロキウム）を開催しています。

近年、「学習院大学客員研究者」として来日した研究者

- Paul Rössler氏、レーゲンスブルク大学教授、2017年9月来日予定
- Stephan Elspaß氏、アウクスブルク大学教授、2015年4月
- Andreas Gardt氏、カッセル大学教授、2014年3月
- Ludwig M. Eichinger氏、ドイツ語研究所所長、2014年1月
- Jörg Bücker氏、ミュンスター大学博士、2014年1月
- Nikola Herweg氏、
ドイツ文学史料館（マールバッハ）研究員、2013年4月～6月
- Armin Burkhardt氏、マクデブルク大学教授、2012年11月～12月
- Bernd Müller-Jacquier氏、パイロイト大学教授、2011年2月～3月



本専攻で講演・ワークショップを行った研究者（抜粋）

- 作家Nora Gomringer氏による朗読会、2016年11月
- 作家Kevin Vennemann氏による朗読会、2016年6月
- Elizabeth Closs Traugott氏、スタンフォード大学（アメリカ）名誉教授、2011年3月
- Andreas H. Jucker氏、チューリッヒ大学教授、2011年3月
- Irma Taavitsainen氏、ヘルシンキ大学（フィンランド）教授、2009年3月
- Peter Auer氏、フライブルク大学教授、2008年3月
- Arnulf Deppermann氏、マンハイム大学教授、2007年11月
- Johannes Schwitalla氏、ヴュルツブルク大学教授、2007年3月



教員の研究活動

近年の外部資金によるプロジェクト（一部抜粋）

- 「ナチドイツの言語統制に関する修辞学的・コーパス言語学的研究—言語学と歴史学の協働」
科研費：基盤研究(C)、2019～2021年度、研究代表者：高田博行
- 「トランスカルチャー的舞台としての東アジア研究—自己像と亡命者のアジア像を通して」
科研費：基盤研究(C)、2018年度～2020年度、研究代表者：Thomas Pekar
- 「トランスカルチャー的舞台としての東アジア研究—自己像と亡命者のアジア像を通して」
科研費：基盤研究(C)、2015年度～2017年度、研究代表者：Thomas Pekar
2017年10月7日～8日 国際コロキウム「West-Östliche Raumfigurationen: Wohnen - Unterwegssein」を学習院大学において共同開催
- 「ナチドイツ宣伝省秘密会議—戦時報道の言語使用に関する修辞学的・計量言語学的アプローチ」
三菱財団人文科学研究助成：2017年（第45回）、研究代表者：高田博行
- 「移住および亡命におけるトランスカルチャー・テキスト文化・文学研究的視点から—」
科研費：基盤研究(C)、2015年度～2018年度、研究代表者：Thomas Pekar
- 「ドイツ語の心態詞と日本語の終助詞の実証的比較研究：発話実験と言語運用理論の開発」
科研費：基盤研究(C)、2014年度～2017年度、研究代表者：岡本順治
- 「19世紀ドイツ語における標準語と日常語の混交に関する言説の社会語用論的研究」
科研費：基盤研究(C)、2014年度～2016年度、研究代表者：高田博行



学生募集要領

学習院大学 文学部 ドイツ語圏文化学科

■ 一般入学試験（コア試験）

募集人数：30名

試験日：毎年2月上旬～中旬

試験科目：国語、外国語、地歴・公民・数学

■ 指定校推薦入学

対象：本学が指定した高等学校（指定校は毎年見直し、選定しています）。

時期：毎年7月上旬に、全国の各高等学校長宛に依頼通知を送付します。

内容：各高等学校長から推薦された生徒に対して、書類選考を行い、合格者を決定します（指定校推薦に関する受験生からの個別の質問は、受け付けておりません）。

■ 公募制推薦入学

募集人数：若干名

選考時期：毎年11月中旬

内容：学力試験のみによっては評価しがたい資質・能力を主に調査書や志願理由書などの資料によって判断するとともに、小論文や面接によって学科の特質への適応性を判定し、ドイツ語圏文化学科にふさわしい学生を選抜します。ドイツ語の学習歴は必要ありません。全国の高等学校から幅広く人材を募り、1校あたりの推薦人数は制限しません。

学習院大学大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻

博士前期課程

■ 秋期入学試験（募集人員約2名） 試験日：毎年9月中旬

■ 春期入学試験（募集人員約3名） 試験日：毎年2月中旬

博士後期課程

■ 春期入学試験（募集人員約2名） 試験日：毎年2月中旬

◆年度ごとの試験日、出願期間、出願資格、試験科目などに関する詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

◆資料・募集要項の請求については以下のHPをご覧ください。

<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/related/request/>

◆お問い合わせ先

○募集要項の請求、ならびに入学試験に関するお問い合わせ

学習院大学アドミッションセンター（西5号館4階）

TEL. 03-5992-1083 ・ 03-5992-9226

電話受付時間 平日 9:00～17:00 ※土曜・日曜・祝日は受付しておりません

○ドイツ語圏文化学科・ドイツ語ドイツ文学専攻に関するお問い合わせ

学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科事務室（北2号館3階）

TEL. 03-5992-1098 E-mail : germ-off@gakushuin.ac.jp

